

**医師のプロフェッショナリズム推進のための、キャリア教育及びキャリア
維持・向上に関連する医学教育の制度化に関する要望書**

平成25年12月2日

一般社団法人
全国医学部長病院長会議

要望書

厚生労働省医政局
局長 原 徳壽 殿

医師のプロフェッショナルリズム推進のための、キャリア教育及びキャリア維持・向上に関連する医学教育の制度化に関する要望書

全国医学部長病院長会議「女性医師の労働・環境問題検討委員会」は、その前身である検討WGの時期より、女性医師就労継続の課題に取り組んで参りました。

平成22年時点における女性医師は、医師総数の18.9%、とくに29歳以下では35.9%を占めるに至り、従来にも増して、女性医師が生涯を通して医師の責務を果たすための実効的な対策が求められています。

本委員会では労働環境および保育環境の改善、キャリア維持・向上の重要性を強調してまいりました。それらを推進すると共に、男女医学生に対する医師のプロフェッショナルリズムを基盤とした「キャリア教育」によるプロフェッショナル意識の確固たる動機づけと、その啓発が極めて重要であると考えています。そのため、大学医学部・医科大学における「医師のキャリア形成に関連する医学部教育の実態調査」を実施致しました。

当該調査結果を踏まえて、当委員会としては、キャリア教育の問題について、以下の対策の早急な実施を強く要望致します。

平成25年12月2日

一般社団法人

全国医学部長病院長会議

会長 別所 正美

副会長 岡村 吉隆

女性医師の労働・環境問題検討委員会

委員長 津田 喬子



要望書

文部科学省高等教育局

局長 布村 幸彦 殿

医師のプロフェッショナルリズム推進のための、キャリア教育及びキャリア維持・向上に関連する医学教育の制度化に関する要望書

全国医学部長病院長会議「女性医師の労働・環境問題検討委員会」は、その前身である検討WGの時期より、女性医師就労継続の課題に取り組んで参りました。

平成22年時点における女性医師は、医師総数の18.9%、とくに29歳以下では35.9%を占めるに至り、従来にも増して、女性医師が生涯を通して医師の責務を果たすための実効的な対策が求められています。

本委員会では労働環境および保育環境の改善、キャリア維持・向上の重要性を強調してまいりました。それらを推進すると共に、男女医学生に対する医師のプロフェッショナルリズムを基盤とした「キャリア教育」によるプロフェッショナル意識の確固たる動機づけと、その啓発が極めて重要であると考えています。そのため、大学医学部・医科大学における「医師のキャリア形成に関連する医学部教育の実態調査」を実施致しました。

当該調査結果を踏まえて、当委員会としては、キャリア教育の問題について、以下の対策の早急な実施を強く要望致します。

平成25年12月2日

全国医学部長病院長会議

会長 別所 正美

副会長 岡村 吉隆

女性医師の労働・環境問題検討委員会

委員長 津田 喬子



要望書

文部科学省高等教育局医学教育課

課長 袖山 禎之 殿

医師のプロフェッショナルリズム推進のための、キャリア教育及びキャリア維持・向上に関連する医学教育の制度化に関する要望書

全国医学部長病院長会議「女性医師の労働・環境問題検討委員会」は、その前身である検討WGの時期より、女性医師就労継続の課題に取り組んで参りました。

平成22年時点における女性医師は、医師総数の18.9%、とくに29歳以下では35.9%を占めるに至り、従来にも増して、女性医師が生涯を通して医師の責務を果たすための実効的な対策が求められています。

本委員会では労働環境および保育環境の改善、キャリア維持・向上の重要性を強調してまいりました。それらを推進すると共に、男女医学生に対する医師のプロフェッショナルリズムを基盤とした「キャリア教育」によるプロフェッショナル意識の確固たる動機づけと、その啓発が極めて重要であると考えています。そのため、大学医学部・医科大学における「医師のキャリア形成に関連する医学部教育の実態調査」を実施致しました。

当該調査結果を踏まえて、当委員会としては、キャリア教育の問題について、以下の対策の早急な実施を強く要望致します。

平成25年12月2日

全国医学部長病院長会議

会長 別所 正美

副会長 岡村 吉隆

女性医師の労働・環境問題検討委員会

委員長 津田 喬子



要望書

厚生労働省医政局医事課
課長 北澤 潤 殿

医師のプロフェッショナルリズム推進のための、キャリア教育及びキャリア維持・向上に関連する医学教育の制度化に関する要望書

全国医学部長病院長会議「女性医師の労働・環境問題検討委員会」は、その前身である検討WGの時期より、女性医師就労継続の課題に取り組んで参りました。

平成22年時点における女性医師は、医師総数の18.9%、とくに29歳以下では35.9%を占めるに至り、従来にも増して、女性医師が生涯を通して医師の責務を果たすための実効的な対策が求められています。

本委員会では労働環境および保育環境の改善、キャリア維持・向上の重要性を強調してまいりました。それらを推進すると共に、男女医学生に対する医師のプロフェッショナルリズムを基盤とした「キャリア教育」によるプロフェッショナル意識の確固たる動機づけと、その啓発が極めて重要であると考えています。そのため、大学医学部・医科大学における「医師のキャリア形成に関連する医学部教育の実態調査」を実施致しました。

当該調査結果を踏まえて、当委員会としては、キャリア教育の問題について、以下の対策の早急な実施を強く要望致します。

平成25年12月2日

一般社団法人

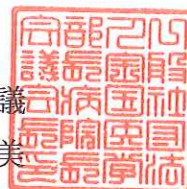
全国医学部長病院長会議

会長 別所 正美

副会長 岡村 吉隆

女性医師の労働・環境問題検討委員会

委員長 津田 喬子



(別 添)

「医師のキャリア形成に関連する医学部教育の実態調査結果」

1. 大学医学部・医科大学における医学生に対する「キャリア教育」体制の充実

アンケート結果では、医学生のキャリア教育担当部署設置は30%未満であり、兼任教官が多く、キャリア教育兼任教官に対する教育評価を実施する施設は全体の半数であった。

キャリア教育担当部署設置の義務化、専任教官の任命、専任教官のFD（教育能力開発）の実施を要望する。

2. 「キャリア教育」の目標及び内容（カリキュラム）の明確化

アンケート結果から、各施設のキャリア教育の内容は多岐に亘り、教育方法も模索中であった。「キャリア教育」のカリキュラムを明確にし、施設間格差を生じさせないことが望まれる。

女性医師の労働・環境問題検討委員会は「キャリア教育」の具体的目標として、1) 医師として就労を生涯継続する、2) 医学知識と技能の研鑽に励み、中断しない、3) 自己啓発力を形成する、4) 医学・医療を社会へ還元する意識を持つ、5) 男女平等な社会の実現に努力する、6) ワークライフバランスを正しく理解する、を提案する。

併せて、「キャリア教育」の内容（カリキュラム）の明確化を要望する。

3. 医学教育モデル・コア・カリキュラムへの「キャリア教育」の組み込み

「キャリア教育」を徹底するために、医学教育モデル・コア・カリキュラムの「A 基本事項 4 課題探求・解決と学習の在り方」の中に、「キャリア教育」の項目を新たに組み込むことを要望する。